

第1回富山県地域交通戦略会議 議事録

日 時： 令和4年6月2日（木） 13：30～15：00

場 所： ANAクラウンプラザホテル富山3階 鳳(おおとり)

出席者： 委員名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

●蔵堀副知事

本日「第1回富山県地域交通戦略会議」を開催いたしましたところ、委員の皆様方には大変お忙しい中、ご出席をいただきました。誠にありがとうございます。また皆様にはこの度の会議の設置におきまして、委員への就任を快くお引き受けいただきました。重ねてお礼申し上げます。

富山県が地域公共交通政策の指針としてまいりました富山県地域交通ビジョンですが、策定から6年余りが経過したところでございます。この間、人口減少、少子高齢化が当然でございますが、また新型コロナウイルス感染症のまん延ですとか、それに伴いまして暮らし方、働き方の変化といったことも起きていていると考えています。さらにはDXの推進ということも社会全体で取り組まれている。そういった状況でございます。そうしたことで地域交通を取り巻く社会経済状況、これが大きく変化してきていると考えています。

今後、持続可能な地域公共交通をつくっていくためにはどうしたらいいのかという検討が必要なわけですが、日常生活に必要不可欠な交通手段の確保は勿論ですが、観光など関連施策との連携ですとか、地域住民の方をはじめ関係者相互の連携と協働にも取り組んでいかななくてはいけないと考えています。

これまでこうした点について必ずしも十分にふまえてきたかというところと少し課題があるかなと考えています。今後はこうした点についてももしっかり議論を深め施策を講じていく必要があると考えています。昨年11月に開催されました「富山県地域交通活性化推進会議」におきまして、ビジョンの見直しの必要性についてご議論いただきました。その中で新たな計画につきましては法定計画として策定するというところでご賛同いただいたところですので。そのため今回新たな計画設定にむけまして交通事業者の皆様、また有識者の皆様をはじめとする関係の皆様が幅広く協議をする場といたしまして「富山県地域交通戦略会議」を設置することといたしました。

本日は今後策定する戦略につきまして委員の皆様から幅広くご意見をいただきたいと考えています。委員の皆様、それぞれのお立場、お考えがとおりかと思いますが、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思っております。それでは本日よろしくお願いたします。

3 議事

(1) 富山県地域交通戦略会議の設置について

●事務局

(資料1に沿って説明)

●司会

今ほど事務局の方から資料1について説明いただきました。委員の皆様からご了承いただければ、今ほどの事務局が説明した資料に基づきまして今後の議論を進めてまいりたいと考えますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

(委員から異議なし)

それでは今ほどご説明した資料1の内容に沿って各部会を立ち上げて今後の議論を進めていきたいと思えます。

続きまして、会長の選任についてお諮りいたします。本会議の会長につきましては参考資料にお付けしております設置要綱第4条第1項の規定により委員の中から選任するということになっております。委員の皆様からどなたかご推薦いただけないでしょうか。

●高木委員

従来からの富山県地域交通活性化推進会議におかれましても座長を務められており、事情もよくご存じの東洋大学名誉教授の石井晴夫委員に会長をお願いしてはいかがかと思えます。

●司会

今ほど高木委員から石井委員の推薦がございました。他の委員の皆様方、いかがでしょうか。

(委員から異議なし)

ありがとうございます。委員の皆様のご賛同によりまして石井委員に会長をお願いしたいと思います。石井委員よろしくお願ひいたします。

●石井会長

ただいま会長に選任されました東洋大学の石井晴夫と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。富山県さんとは長いおつき合いをさせていただいております。北陸新幹線もそうなんです、並行在来線のあいの風とやま鉄道、高架下の商業施設の活性化、県立公園の有効利用、能越自動車道の料金所撤去、いろいろ長い間ここにお集まりの先生方や委員の皆様、事業者の皆様、大変ご指導いただきまして本当にあり

がとうございました。

先ほど事務局からお話がありましたように国の施策に基づきまして法定の協議会を設置するという事です。6年前にビジョンを作りまして、その間に先ほど副知事さんからお話がありましたように大きく環境が変わってきている中で、やはり新たな時代に対応した富山県の地域交通戦略をしっかりとしたものを作らなくてはならないという県の当局の強い思いにより、富山県地域交通戦略会議の設置にむけて準備をされてきました。今までのご尽力に対して心から敬意を表する次第です。

特に先ほど事務局からご説明がありました通り、資料1の最後のページで4つも部会が設置されるということで、ほとんどありとあらゆる分野をこの4つの部会が網羅しています。ですから、この部会で様々な議論をいただいて、本会議の方に、ご提示いただきたいと思っています。

ウェルビーイングという最近よく聞く言葉なんですが、これはやはり富山県の県民の皆様、安全安心そして豊かな生活を、しっかり公共側でモビリティ・公共機関としてサポート、あるいは持続可能な事業としてつなげていくということが、ここに表れていると思います。たいへん先見性のある言葉を副題に入れていただきました。富山県さんの思いがウェルビーイングの向上を目指してという言葉に入っていると思います。

そういう中で県民の皆様、市や町や皆様の生活を何があっても公共側が支えるのだという強い思いが出ていますので、細かいところを様々な観点からご議論いただいて、全国に誇れる計画を作ってください。そしてまた私達もそれについて全力投球させていただきます。都道府県レベルでは聞くところによりますと計画ができていたのが10か所と聞いています。まだまだ全県レベルでみた計画は難しいわけです。

ですから、富山県の動向は全国から注視されていると思います。全国のモデルケースになるような素晴らしい戦略会議に基づく地域交通戦略を作って、それを具体的に戦術としてアクションとしてぜひ起こしていただければと思います。委員の皆様のご支援、ご協力を賜りながら、私も全力で臨んでいきたいと思っておりますのでご指導、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(2) 富山県地域交通戦略のポイントについて

●事務局

(資料2に沿って説明)

●石井会長

本日は第1回の会議ですので、ただいま事務局からご説明いただきました富山県地域交通戦略のポイントについて、ご意見を賜りたいと思っています。それに加えて今後の本格的な議論に向けて資料2の内容に限らず、委員の皆様からご自由にコメントをいただければと思います。

(以降、順次指名により発言)

●宇都宮委員

関西大学の宇都宮でございます。よろしくお願いします。こういう戦略を取りまとめるということにあたり、私も委員に任命されたということで非常に重い責任を持ったなという感じつつも、大変光栄なことでもあり、これから頑張っていかななくてはならないなと思っている次第です。

今回戦略のポイントもお話いただきましたが、ウェルビーイングの向上を目指してということを最初にパンと掲げていただいたことは非常に大きな一歩かなと思っています。と言いますのも、ともするとこのような計画は目的と手段がいつの間にか逆転してしまう可能性がある。目先の事業をどうするよなことにいってしまいがちです。そういう意味ではしっかり目標としてウェルビーイングを最初に打ち出していたことが非常に大きなことかなと。私自身、ヨーロッパの交通や地域政策をいろいろと研究しているのですが、現在EU、ヨーロッパ欧州連合が指針としている、この手のモビリティ計画の指針として SUMP と呼ばれる Sustainable Urban Mobility Plans というものがあるのですが、ここではっきり言っていることは目標、ビジョンを決めて、そこを1つの到達点としてそこからバックキャストして計画を立てていくのだという事を強く言っているのですね。ですので今回の計画もバックキャストを明確にした上でやっていかなくてはならないし、やれるのではないかと思う次第です。

言い換えれば、単に交通事業の話がこの先どうするという話ではないと思っています。そういう観点で、今日いただいた紙等を見て言葉尻をあえて捉えてはいけないかもしれませんが、この資料2の真ん中、右側の2つ目、今後の検討事項の例ということで収支採算性や事業者への経営支援の視点にとどまらない目標の設定ということが書いてありますが、実はここは「とどまらない」という発想ではなくて、むしろ目標の設定があって、そのために事業をどうするかという議論であるわけです。収支採算性、経営支援が基本で、そこにプラスウェルビーイングということではないということです。

また、この手の計画は非常に大きな話ですので、ぜひぜひ関係の皆様、市町であったり、他の部局であったり、そこはしっかりやっていただけるといっていますが、EUの計画でもそこはしっかり書いてあります。統合という言い方をしていますが、それぞれの政策が整合性を持たなくてはならない。交通のほかに土地利用、健康、福祉、いろいろあると思いますが、その整合性まで意識した上で考えていかなくてはならないし、もしそこに不整合があれば我々からしっかり申し上げる必要があるのだらうなと思っています。

最後にもう1つ、今回のポイントにあえて申し上げるとすれば、環境変化の中で人口減少やデジタル化やコロナが言及されていましたが、1つ大きな議論は脱炭素、カ

ーボンニュートラルです。今日いただいた紙にはその言葉がなかったので、ぜひこの機会に、カーボンニュートラルという1つの制約条件の中で、我々はウェルビーイングの向上を目指すべきということを一言申し上げます。その上でどういう目標設定が必要なのかという視点が重要ではないかと思っております。長くなりましたが最初ということでお話させていただきました。ありがとうございました。

●大西委員

富山大学の大西です。よろしく申し上げます。

今、宇都宮先生がおっしゃったような形の基本的な方針を立てて目標を立ててバックキャストする形で順番を追って達成を考えていくと。SDGsもそういう形で、基本的にはバックキャストしながら、いろんな形の問題を解決までいけるかは別として、道筋を立てて行くスタイルをとるのがこれからの計画なんだろうと思います。

私の専門が人文地理学、特に地域課題を取り上げて、街づくりを検討していくところにあるのですが、街づくりの中で富山県下ですとどうしても自家用車を主体とする移動が県民の皆さんが経験していて、その中で今後どんどん人口が高齢化していく時に自動車の免許返納がどうしても発生していく。その中でいかにして自家用車ではない生活のスタイルを提案していったり、それに対して理解を示していただいたり、実際そのような形の生活をしていただくのがとても重要なところになるのではないかと、私の専門のところからは感じています。

要は自家用車がないと何もできないという形の意識を富山県民かなり多くの人たちがもっているかと思いますが、そこの部分をどういう形に変えていけるのか。そこが変わっていけばカーボンニュートラルに対応できるさまざまな移動の戦略ですとか、自家用車がなくても豊かにウェルビーイングを高めていくような生活が成り立っていく部分が出てくるかと思うのですね。ですので交通に関する文化的な側面と申しますか、生活のあり方をどういう形でうまく皆さんに理解してもらって変えていくことができるのか。それを今回の交通戦略の中でも考えなくてはいけない重要な部分ではないかと思っています。こういう会議、特に公共交通に関する会議にあまり出ることがこれまではなかったので新鮮な気分ですし、非常に重要なまた責任の重い役割だと思っているのですが、皆さんからいろんなご教授いただきながら考えていければと思っていますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

●本田委員

富山大学の本田と申します。いま宇都宮先生、大西先生から色々なお話がありましたので、私の方からは委員になった決意をコメントとして述べさせていただきたいと思ひます。

私、県内のいろんな地域で市民の方々と一緒に交通街づくりに取り組んでいるところなんです。この度、富山県地域交通戦略会議また鉄軌道サービス部会の委員として参画することになりまして、いろんな関係者の方々と議論できるということを楽しんで思っ

ていると共に責任も感じています。

私は関西の方から富山県に移り住んで5年目になるのですが、車社会の富山県で車を持たずに生活しています。車を持っていないというといつも驚かれるのですが、この会議でも車を持たない一県民という視点からも意見を述べさせていただきたいと思っています。車を持っていない私なんです、富山市の中心部に今住んでいまして、大学に通勤する際は市内電車、路線バス、自転車、徒歩、あるいはレンタサイクルとさまざまな多様な交通手段で往復しています。交通手段の選択肢が多くあることが生活を豊かにすると思っていまして、ウェルビーイングの向上を目指す上での大変大切なことだと思っています。

一方で、毎年の冬、天気の悪い日もそうですが、朝の市内電車で満員で乗れないという経験もしょっちゅうしています。もっと公共交通の環境改善をして利便性を向上していくことの必要性を感じている次第です。今回の計画策定におきましては、今ほどもいろいろありましたが、私は重要なポイントとしては採算性にとらわれないとかバックキャスト、市町村等との政策の整合が大事だと思っていますが、しっかりと計画内容について議論して実効性のあるビジョンにしていくことが必要だと思っています。ただ、たとえばいま議論になっているJR城端線や氷見線のLRT化の話があるのですが、判断を急がなくてはいけない事業につきましては、この会議での計画づくりと並行して取り組みを進めていく必要があるのではないかと思います。

私としてはできるだけ貢献できるように協力してまいりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

●品川委員

トヨタモビリティ富山の品川と申します。現在、交通MaaS、マルチモーダルサービスのmy routeというアプリを県内で展開させていただきまして、そのmy route推進協議会の会長を務めさせていただいています。

いま地域で様々な交通課題があると思われていますが、その解決の一手段としてデジタルの活用、手段としての公共交通があるのですが、そもそもの賑わいづくり、移動の活性化をまず重視しまして、そのためには目的地である地域の魅力であるとか、商業の魅力また飲食の魅力そして観光地としての魅力をしっかり発信することが重要であろうという観点から、デジタルの活用、目的地・地域の魅力の発信ということを経営しているmy routeというアプリでは重視して取り組んでいます。

結果的に移動の活性化、公共交通の利用促進と、車も含めた街のにぎわい、移動の活性化につなげていけるかと思っています。キーワードとしてはまさにMaaS、モビリティアズサービスという概念だと思いますし、加えて地域交通課題の解決という意味でデマンド交通、オンデマンドという2つの新しい枠組みを既存の交通ネットワークにかぶせることでこれまで取り組めなかった新しいソリューションを導入していくべきではないか。またそういったデジタルの活用によってさまざまな移動のデータ、ビッグデータを活用した様々な分析が可能になり、また消費者の皆さんには定額払い

のサブスク、ポイントがたまるマイレージとかのサービスを公共交通の分野にも仕組みとして導入することが容易になってきますので、さまざまな新しい工夫をしていくことが必要ではないかと思います。

県内トヨタグループとしまして県庁さんと連携協定を結ばさせていただいたのですが、将来、自動運転のモビリティが普及していきますので、そういった自動運転技術も活用した交通課題の解決にトヨタグループとしても積極的に取り組んでまいりたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

● 畠山委員

博報堂の畠山でございます。今日このような場にお招きいただいて委員として仰せつかりまして、非常に光栄に思っています。自分自身も博報堂という東京から民間企業から来ており、異物という認識をもっていますので、自己紹介ならびに今やっていることを簡単に述べさせていただきたいと思います。

富山県の朝日町で、先ほどから議論に出ましたマイカーを使った公共交通「ノッカルあさひまち」というものを朝日町の黒東自動車さんと町役場と連携しながらやっています。今日、河村副市長もいらっしゃっていますけれども、高岡市様でもノッカルの導入に向けて先月から検討に入っているという状況でして、富山県には週1回は来させていただいています。さらに私事ですが、先週朝日町に空き家を購入させていただいて、心身共にずっぽり朝日町に、そして富山に没頭している状況です。なんで僕ら博報堂がやっているかということ、やっていることで、今日ウェルビーイングみたいな話がありましたが何が見えてきたか、少し共有させてください。

そもそも博報堂という会社は瀬木家、1895年に富山の出身の創業者が立ち上げた会社です。そんな縁もあって、我々として広告事業から脱却するにあたって、私自身いろいろ全国まわらせていただいた中で、この富山県で最初のスタートを切らせていただいているチャレンジの1つです。全国まわらせていただいて、たまたま出会ったのが富山県の朝日町だったのですが、今では空き家を購入するようになっているのですが。そもそも地域交通について、東京から来たのですが奈良県出身でして、地域交通の維持については、私事ですが父親が4年前に急死しまして奈良に母親が一人住んでいます。実際に公共交通が、バスがどんどんなくなっていて、いま車に乗れるのですが、この先どうなるのだろうという思いから、この課題、日本全国に起きている課題ということで没頭してやらさせていただいている次第です。そんな思いを持って回っていたら朝日町に出会ったという話なんです。そこで出会ったこととしてウェルビーイングみたいな話で、まさに住民同士が助け合っているのですが、ドライバーさんが「人の役に立てる機会を作ってくれてありがとう」というのです。なかなか地域に貢献する機会がなくなって、その中でノッカルという自分が人の役に立つ、住民の役に立つ機会をくれてありがとうと言われます。乗せてもらっている側から言われるのは「誰かに頼むことはあったのだけど、頼むとお返しにブドウを渡すとか、何か持っていかなくてはいけないので、億劫になったんだよね。こういう

機会をくれて本当に出やすくなってありがとう」みたいなことを言われるのですね。自分が人の役にたっていたり、外に出たかったけど出られなかった、それが出れるようになる。地味かもしれませんがこれは1つウェルビーイングの話につながるのではないかと考えています。

私自身も今日こういう役割をいただいていますので、決してノッカルを富山県に埋め尽くしたいというのではなく、ノッカル朝日町で学んだこと、地域のコミュニティ、地域が支え合う、人が人同士ありがとうと言い合っている、そういう地味かもしれませんが基礎となる住みたい街にみんな助け合いながら支えあいながら住む。そういう社会の実現に向けて微力ですが貢献していきたいと思っていますので、民間企業でするのでとにかく実体をつくって皆さんと共に富山県に貢献していきたいと思っています。

●楠田委員

私も富山の地域でこのような検討会に参加させていただくのは初めてですので、ぜひ今後長いお付き合いになりますので、また別の機会にご訪問させていただいてお話などを聞かせていただきながら、勝手なことを言っているなど思われぬように気をつけたいなと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

私は兵庫県の中山間部の育ちでして祖母が免許返納で苦労しました。また、姉に障害がありまして、スイス留学をきっかけに地域の活性化やモビリティに興味をもちました。バス、タクシー、自動車販売店等の業界紙の出身でして、国交省の取材も沢山させていただいて事業者側の気持ちすごくよくわかります。そこからEV化ですとかMaaS、パーソナルモビリティ、自動車や鉄道の自動運転、免許証の返納問題、移動全般を取材していきまして、取材だけでなくサービスを開発したり検討会の委員を務めさせていただいています。

そんな観点から今回の富山県さんの「ウェルビーイング」というのは、全国的にも新しいキーワードでして、こちらを立てて交通をつくるというのは画期的だなと私は思っています、先生方おっしゃったようにバックキャスト的に作っていただきたい。ウェルビーイングと交通というところで、どういうものが絵としてあるのか。自分らしく豊かに生活するための地域内の移動とはどういうものかということを中心にしっかりお話したいのです。

皆さん交通事業者さんとか立場があるかとは思いますが、一旦そこは置いておいて、皆さんどういう風に歳をとりたいか。お孫さん、子どもさん、将来において地域をどうしていきたいかを本音ベースでお話してビジョンを描く。そこに時間を割いて原点に戻りたいなど。そのためにはどうしたらいいか、という形でやっていけないか。そういう形にするためにもいろんな勉強会を開いて、いろんな事例や考え方を共有していく、というのが非常に大事でないかと思っています。

公共交通の会議ということなので、もしかしてずれてしまうかもしれませんが、大西先生がおっしゃったように免許返納という自動車利用の多い地域ですので、そこに

新しい市場がある。一生涯困らない移動、ライフスタイルはどうしたらいいのか。車プラスもう1つの移動手段を持ちましょうということ。そういうところを見ながら新しい送迎サービスであったり、車椅子のパーソナルモビリティの活用であったり。そのための道路の再配分。道路ネットワークをみながらしていかないと公共交通も厳しい状況になってしまうのではないかと思います。

続きまして、高齢者の話ばかり焦点があたりがちですが、学校が厳しい状況にあります。学校の統廃合が進んでいまして、ウェルビーイングの観点から地域を愛でることができない状況になってしまっていると。交通事業者さんにとっては、もしかするとスクールバスという需要があるかもしれませんが、パソコンばかりさわって目が悪くなる子どもさんいますよというところもあります。自然を愛でることなく家の中に閉じこもりきりという状況になるのはいかがなものかと思っておりますので、地域を愛でる、自然を感じるウェルビーイングな子どもを育てる観点からもどのような移動があるのか。スクールバスの活用、パーソナルモビリティの活用といったところでの考えがあるかと思います。高齢者の方の話に戻りますが、新たなニーズがあるかと思います。待ちから創客ですね。新たな需要の発想で考えていただいたら良いのではないかと思います。

●石橋委員

富山県交通運輸産業労働組合、働く側の代表ということで委員として参画させていただいています。これから皆様方と策定していく地域交通計画ですね。県として策定するというので、これまでそういう思いがずっとありましたので、先ほどからありましたが県民の幸せ向上につながるような計画を希望しています。その中に参画させていただいているということですので、公共交通に携わっている私たち、働く側ですね。私たち側のウェルビーイングもそこに含まれてほしいという思いもありますし、また現在コロナ禍ということもありまして人の移動が相当なくなったということで、公共交通に携わっている事業者もそうですが、働き手側も大きな打撃を受けている。職場を去るということで運転手、乗務員が減少しつづけています。

そういう事を含めると、例えば計画を作るにあたって、実際に県内の稼働するバスやタクシーがどれだけいるのか。乗務員がどれだけいるのか。そういうことも計画の中で部会などで議論していただき、基本の数に入れていただきたいと思います。また、人が集まらない産業にもなっていて、そのことについてもどうするか。このままいきますと運転手、乗務員の高齢化だけが進んでいくことにもなりかねないこともありまして、当然公共交通に求められる安全安心が100%維持できるのか、働く側としては、そこにもスポットを当てた計画を策定していただきたいと思います。

もう1点、部会を4部会の方に分けられる。それは結構ですが、議論の透明性というはおかしいですが、議事録等をぜひあげていただく中でみんなが共有できるような形にいただければありがたいと思っていますので、その点をお願いしたいとい

うことです。

●麻島委員

富山県老人クラブ連合会の麻島でございます。老人クラブの大きな問題の1つとして、コロナ禍で高齢者が感染を恐れて外出が減ってきていると。閉じこもりがちになる。フレイルが進む。豊かな老後に支障が出てくるのではないかと。いかにして高齢者の外出を促すか、仲間と共に活動するかということが大きな問題となっています。県民の1/3が高齢者だと思います。全国的にも高い高齢化率ですし、まだ高齢化率が上がってくると思います。ここに少子高齢化が位置づけしてありますが、まだまだ増える高齢者という視点を大切にさせていただけたらと思います。

ところで、今日私はこの会議に出席するために、「高山本線シニアおでかけきっぷ」を使って来ました。この切符はワンセット4回分で、私は2回目の利用です。そしてもう1人ご高齢の女性がおられて、その方も求めておられました。2セットくださいと。2セットにすると1回往復で2枚使うので、1月間に4回行くという事ですね。私は行く時は使えるのですが帰りは使えない。飲んで帰ると5時を過ぎてしまうということです。これはまだ結果は出ていないですが、こういう取り組みはありがたいと思っています。戦略という大きな話題にはそぐわないかもしれませんが、情報提供としてお話させていただきました。

●北岡委員

富山県自治会連合会の北岡でございます。まずもって富山県地域交通戦略会議という大きなテーマの会議に委員として出席させていただいたこと、ありがとうございます。

富山県には320ほどの自治振興会がありまして、それぞれの代表自治振興会長が地区の住民の代表として参加して住民の意見を広げているところですが、ご存知のように自治会連合会の大きなテーマは地域コミュニティの促進、地域の活性化を目指しているわけですが、先ほどの発言の復習になります。人口減少、少子化、高齢化、コロナ禍ということでなかなか地域コミュニティの促進というテーマができない。そこで今ほど話題になっています公共交通利用機会ならびに外出を促すということがきっかけになって地域住民の関りが促されていけばいいなと思っています。

それぞれの自治会においては、地域の社会福祉協議会ならびにふるさとづくり協議会等々と連携しまして、いろいろと県や市の出前講座を参考にしながら、交通ルールの徹底ですとか、外出機会の促進だとか、みんなで明るくふるさとづくりをしていこうとやっているわけですが、こういう機会が地域コミュニティの促進ということのきっかけになってふれあいがますます促進していくことを期待しているところです。何卒よろしくお願い申し上げます。

●鹿野委員

J R西日本金沢支社交通企画室長の鹿野でございます。平素は弊社事業にご支援賜りまして本当にありがとうございます。3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークとなりました先の連休につきましては、昨年の3倍弱のお客様のご利用がありました。コロナ前、2018年と比較しましても北陸新幹線については8割以上まで回復しまして、なんとかお客様が戻りつつある手ごたえを感じつつあるこの頃です。一方で会社の経営状況という点では、2021年度の決算は1,131億円の赤字ということで2年連続の4桁億の赤字を計上してしまうという大変厳しい状況が続いています。

そのような状況下ですが、北陸新幹線の敦賀延伸を約2年後に控えまして、2024年秋には北陸デスティネーションキャンペーンを北陸3県の皆様と開催させていただくこととなりました。すでに開業した区間であるご当地富山にとりましても第2の開業となり、改めてスポットライトを浴びる大きなチャンスと思います。弊社としましても富山をはじめとする北陸の魅力を丁寧に発信していくことで、着実なご利用の回復であったり、さらに言えばこの厳しい状況下における手前どものコスト構造改革とあわせた成長戦略を進めていければと考えています。観光の取り組み等で富山を訪れてくださった方々に公共交通をご利用いただくことで地域交通の活性化につながり、またさらには街の賑わいづくりといった外部経済効果も生むのではないかと考えています。そういう状況に我々としても良い循環を作っていくように精一杯取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きのお力添えをいただけたらと思っております。

地方ローカル線では、今後もさらなる人口減少等の環境変化がある中でなんとか今よりもご利用しやすい最適な地域交通体系を地域の皆様と一緒に作りあげていく、そういうことで今ここに目標に掲げているウェルビーイングに何とかつなげていければと考えている次第です。

富山県様や沿線の各市町村様のお骨折りも賜りまして、先ほど本田先生にもお話しいただいた通り、城端・氷見線におきましてはLRT化検討会、高山線においてはブラッシュアップ会議を設立いただきまして、地域のまちづくりにあわせた最適な交通体系に関する対話を推進させていただいており、本当にありがとうございます。今回の県全域の地域交通戦略の策定に向けた議論がこれらの検討の追い風になるのではないかと考えています。ぜひ事業者間の協調に加えて、我々だけでは実現が難しい施策についてもぜひ一緒にご議論させていただき、地域の未来に資する新しい交通を築いていければと思っております。何卒宜しくお願い致します。

●日吉委員

あいの風とやま鉄道の日吉でございます。よろしく申し上げます。

弊社の方も利用状況をご説明したいと思うのですが、昨年度より今年の4月の数字でご説明しますと、通勤の利用者がいわゆるコロナ前の4月と比較すると、93%位になっています。通学ですが、これもコロナ前と比較すると4月は98%まで戻ってきているという状況です。ただ定期外につきましては75%という状況です。昨年度に比べますとだいぶ戻ってきているという状況ではありますが、まだ、トータルで90%位に

なってきたという状況です。5月は新幹線の利用も多かったこともありますし、富山駅すぐ近くでマルトさんがオープンして利用が非常に増えたということもあって、5月の定期外は4月が75%程度だったものが、おそらくコロナ前に比べると80%超えるところまで行くのではないかとこの状況で、少しずつ利用者が戻ってきている状況ではあります。ただ、お客さんが戻ってくるということで、今まで割と車両が空いていたという状況があったのですが、今年度また新しい車両を新造するという形で、次に向けて増車などの対応を計画的に進めていかなくてはならないという状況です。

また高齢者の免許返納のことですが、当社の場合は免許返納者の方については通常の料金の半額にするということをしてしています。返納者の半額の制度については、コロナ禍であっても非常に多くの利用をいただいているという状況です。こういうような高齢者の方々が車の運転ができないということで、公共交通の方に来ていただいているわけですが、こういう方達に対してどう考えるかという昼間のダイヤですね。昼のダイヤが少し薄いという問題がありますし、あるいはバリアフリーですね。エレベーター等が必要になってきます。こういう状況下では私どもとしては利便性を向上するための支援ですね。行政の方からしっかりしていただく必要があります。いわゆるウェルビーイングという形で県民の幸せ向上ということであるならば、今までの赤字補填というような観点ではなくて、公共交通の利便性をあげていく支援を行政サイドでやっていくという形で、今までの行政からの支援の考え方、方向性を見直していただく時期に来ているのではないかと思います。

●新庄委員

富山地方鉄道の新庄でございます。よろしくお願いたします。今度の会議では公共交通について協議する各専門部会が新たにつくられて、これまでより深い議論になるということは、いろんな課題の多い事業者にとっても、その改善につながっていくこともあるということで大変期待できる場所です。事業者としてはその協議にしっかり加わって、事業の現状をわかっていただくためのデータであったり、現場の実態等をしっかりお伝えすることが事業者の役目だと思って、その役目をしっかり果たしていきたいと思っています。

それで、少し事業者目線の話になりますがご了承いただきたいと思っています。富山地方鉄道としてはこれから特にこれから議論の中心として目を向けていただきたいのが弊社の鉄道線です。鉄道は乗り合いバスと同じようにコロナ前から非常に厳しい事業環境で赤字です。先般JR西日本さんから公表されました利用実態の目安となる輸送密度についても最低基準の2千人を大きく下回ってしまっていて、コロナ禍において、さらに200人減少するという状況であるにもかかわらず、これまで弊社は営業キロも変更していませんし、乗り合いバスほどいろいろな運営に関する施策であったり対策についても本格的なことは行っておりません。さらに言いますと、収益に合算する支援金であったり補助金であったりという制度もございません。このような状況の中で、

やはり弊社としては鉄道線をこのままの運営や制度で維持していくことはかなり厳しいというふうに思っていますし、どう見直して地域交通の役割を果たしていくかということが将来を見据えた抜本的な対策が必要ではないかと考えています。ですので先ほど鉄軌道サービスの利便性、持続性の確保のあり方に関する検討と関連して、少しでも早い当社線、鉄道線に関する協議を始めていただきたいと思います。

●水上委員

万葉線の水上でございます。皆様にはいつもお世話になっております。昨年11月にも発言させていただく機会がありまして、やはりコロナ、お客様がなかなか戻ってまいりません。定期の方はだいぶ落ち着いてきたのですが、依然として日中の定期外の方では先ほどあいの風とやま鉄道さんの方からもありましたが、9割位ということではなかなか戻ってこないなど。ライフスタイルが変わってしまったのではないかと考えています。ただ5月のゴールデンウィークは大変なご利用をいただきました。沿線市の高岡市さん、射水市さん中心にイベントが復活したということで市民以外の方も含めてご利用いただいたということで、沿線の人口はこれから減ってまいりますが、両市のイベント企画が弊社の頼りの綱かなと思っています。夏の花火とかいろいろありますが、そういうものも含めて新たな企画等に取り組んでいきたいと考えています。

そういった利用状況については依然として厳しいという話ですが、1つ今ほど地鉄さんからお話がありました通り、両市の沿線人口は確実に減っていきます。これはもう富山県全体が減っていくのだらうと思いますが、その中で日々感じているのはコストの話でして、弊社は軌道、LRTを中心に走らせているのですが、最近の電車は電子化が進んでいる関係で償却年数が大変早い感じがします。基盤が傷んできたので1枚交換したいと思ひまして、電機会社やメーカーに相談しますと、そのICチップは15年もたつと作れないと。最初から今のチップを作るといくらになるのですかと聞きますと、設計からはじめると2千万円ほどかかりますという話が出てきます。最近のそういった維持コストはどんどんこれからはかかっていくのだらうなということで、コストと費用対効果というのですかね。行政さんの方から見るとそう見えるのでしょうか。弊社としては安全第一に運行したいと考えていますので、そういうことに対して今度部会の方で交通ワンチームという部会に参加することになっていますので、そういう機会の中でも皆さんとご議論していきたいと考えています。

●梁取委員

北陸信越運輸局交通政策部で次長をしています梁取と言います。よろしくお願ひいたします。

いろいろお話が出ていましたが、公共交通については住民の日常生活、我々の足を支えるということだけでなく、先ほどもありました、出歩くことで地域コミュニティを促進したり健康増進にも貢献する非常に重要な役割を担ってもらっていると思

ています。

そんな中で、現状としては人口減少や少子高齢化の進展、ドライバー・乗務員不足等の多くの厳しい状況が起こっています。こうした中で富山県さんにおいて、県が主導的な役割を果たして持続可能な地域公共交通のあり方を検討するために新たに法定協議会を立ち上げていただいたこと。広域的な法定計画の策定に向けた検討に着手いただくということで、ありがたいことと思っています。

昨年、閣議決定されました交通政策の基本政策、こちらでは地域が自らデザインする地域の交通、行政と民間が一体となり地域が支える公共交通という政策的方向が示されているところです。現在、本省ではこれらの方向性の実効性を高めるため、最新のデジタル技術等の実装を進めつつ、必要となる制度的手当てについて官民だけでなく市民を含めた幅広い関係者による共創という基本的考えの下、地域公共交通をリ・デザインすべく検討を進めているところです。

北陸信越運輸局としては、こうした本省の検討もふまえつつ、富山県における持続可能な公共交通のあり方の検討に協力をさせていただきたいと思います。本協議会において策定される地域公共交通計画において実施していくとされた事業に対しまして、予算面等も含めてどのような後押しができるか検討を進めてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

●三浦委員

富山市は自動車に頼らない生活ができる都市を目指しまして、コンパクトシティプラスネットワークを長年にわたり取り組んできたのは皆さんご存知の通りかと思えます。そのためのインフラ整備もかなり実施してまいりましたが、本日は近年のソフト施策を中心にご紹介したいと思います。本日の会議でご提案のありました4つの部会、これはよく考えられていると思いますので、その部会に沿った関連した取り組みについてご説明したいと思います。

まず、サービス連携高度化部会に関連する取り組みにつきまして、必ずしも高度とは言えないかもしれませんが、エコマイカというよく皆さんご存じかと思えます。地元の交通ICカードを活用して65歳以上の方の外出促進、健康増進を目的としてお出かけ定期券というのを富山地方鉄道さんと連携して発行しています。これを利用すれば鉄道やバスに乗って中心市街地まで片道100円で来ることができるという取り組みです。

次に、鉄軌道サービス部会に関連する取り組みになりますが、JR高山本線の活性化に向けて、以前より富山市が費用負担して鉄道運行本数を増便したり、あるいはパークアンドライド駐車場を整備したりしてきましたが、本年度より先ほど麻島委員からご紹介がありました通り、高山本線シニアおでかけきっぷをJR西日本さんと連携して取り組むなど、利用者視点に立った取り組みを進めています。

最後に、地域モビリティ部会に関連する取り組みとしましては、岩瀬地区におきましてグリーンスローモビリティという20キロ未満で走行する8人乗りの電動バスな

んですが、これを先月末まで運行していました。平日は地域住民のスーパーマーケットまでの行き来に、休日は岩瀬地区の観光客にゆったりと街並みを楽しんでいただくようにルートやダイヤを工夫した結果、たくさんの方にご利用いただきました。新しい交通手段の1つとして認識いただけたのではないかと考えています。また来月から別の地区で社会実験を開始すべく現在準備中といったところです。

その他になりますが、指定されたお花屋さんで500円以上のお花をお買い上げの方に路面電車の無料券を進呈する。こういった取り組みですとか、市内の主な企業を訪問しまして交通利用を働きかける等、積極的に取り組んでいます。

富山市が現在進めている主な取り組みは以上ですけれども、これからも変わるであろう社会経済情勢の変化、あるいはデジタル化の進展等をふまえて、公共交通のさらなる活性化を目指してまいりたいと考えています。

また、富山市でも地域公共交通計画を令和5年度中に策定することとしていますので、本日のこの会議のテーマであります県の地域交通戦略と整合がとれるように取り組んでいきたいと考えています。

●河村委員

高岡市の取り組みを簡単にご紹介したいと思っています。高岡市もご多分に漏れず県内各地と同じく車社会なわけですが、いろんなアンケートをとりますと、将来自分が高齢になって運転できなくなった時の不安が潜在的に思っている方がたいへん多くいらっしゃいまして、先ほど大西先生から文化を変えなければということのご発言がありました。文化を変えるより先にこれらの進行によって否応なく変えざるを得ない状況が、技術開発等でスピードは緩和される面はあるのですが、喫緊の課題になるのではないかと考えています。

そういった観点から、本市では既存の鉄軌道とか路線バスについて事業者さんを支援させていただきながら維持していくと共に、それらを補完するといいますか、いわゆるフィーダー型で住民の組織が主体となった住民協働型の地域交通、乗り合いタクシーとか、先ほどご紹介のありましたノッカルとか、ああいった形のものがないかということで、導入のための地域の話し合いですとか、実証運行のための経費等につきまして昨年度あたりから支援させていただきと共に、職員が地域に出向いている相談に乗ったり、あるいは一緒に考えさせていただいているところです。

現在2つの地区で乗り合いタクシーの実証が始まっています。この秋から本格運用できる地域もあるのではないかと期待をしているところですし、朝日で運行中のノッカルのシステムを活用して何かできないかという地域もあります。そうした地域に対しまして引き続き財政的な面はもちろんですが、情報提供や相談等の対応で支援していけないかということで、地域協働型のコミュニティ交通を整備しまして将来的な車社会からの移行にそなえていきたいという思いで取り組みを進めているところです。

●小竹委員

宜しくお願い致します。上市町の小竹と申します。

うちの町では中川町長が2期目ですが、1期目の時の公約で町営バスの再編をしますというものがありませんでした。そういったこともあり、令和2年3月末でうちの町の公共交通網形成計画はもう策定済みとなっています。

それとあわせまして令和元年の10月から1年間いろいろな実証運行をさせていただいて、2年10月から本格運行という形をはじめているところです。以前と変わった点としまして人口分布の新しい状況を見て運行ルートを変えてみたり、新しい路線も新設しました。また、それぞれの路線も前よりは増便してやったり、なによりうちは町内のバスなので地鉄本線の到着の時間とあわせた乗り継ぎをちゃんと考えたダイヤ改正等いろんな工夫をさせていただいています。

やはり地域公共交通を守るということで地元のタクシー会社さんとも連携させていただいて、予約乗り合いバス形式を2路線でやっているのですが、その運行をお願いしています。これにも私すごく関わらせていただいたので、町の中としてはかなり考えてやってきたつもりであります。

ただ高齢者の方の免許返納も沢山ありまして、うちでは返納された方に5年間町営バスの無料運行券をお渡ししているのですが、なかなかバスが行けない地区ですとか、路線が行っていないところもありますので、今年の春から電動のシニアカーを購入された時の補助なども作っています。

なにより町内はいいのですが、富山との連携は地鉄本線の輸送が欠かせないので、地鉄の維持を私達としてもお願いしていきたいと思っています。

●高木委員

皆様方のご意見、まったくごもつともですが、冒頭に宇都宮先生言われましたが、何のためという目的を明確にする。そして皆さん方がいろいろとすでにやっておられる良好事例を集めていく。三番目としてはなんととっても県民、市町村民の理解を得る。これに尽きると思います。

そのキーワードはウェルビーイングなんですけど、ウェルビーイングの定義、これをもう少ししっかり考えていく必要があると思います。ついつい利便性とコストという対立的になるのですが、私は銀行なものですから待たせないことがベストですが、実際はできないので、納得タイムが大切とっております。何分までが我慢していただけるか。県民・市町村民の思いも大事だろうと。

それから共創という言葉も出ましたが、その通りですが、富山県では森林のワンコイン、県民一人が1年500円出して里山の整備をしています。そういう支援を出してやっていく必要もあるのだろうと思います。

大前提となる富山県の5年後、10年後の人口推移。そしてもう既に上市町でやっていますが、町村別の人口分布もわかる範囲で集めて、好き嫌いやわがままを言うのではなく、朝日町でやっておられるようなお互い助け合ってウェルビーイングでいくの

だというのが、ここがキーではないかと思います。

●石井会長

ありがとうございました。大変重要なポイントをおさえていただいて、今後の方向性を高木会長からご示唆いただきました。まだまだ意見を言われてない委員の皆様もおられるのですが、今回1回目ですので第2回目以降、部会も設置されますので、これから議論を本格的に進めてまいりたいと思いますので、今日ご発言いただけなかった方、補足でご意見をいただける方は事務局の方にぜひどしどしご意見を賜われれば、大変ありがたいと思います。事務局と私の方で整理して、次回に向けて資料の作成、今日いただいた委員の皆様から貴重なご提言やご意見、これは本当にこれからの富山県の地域交通戦略を策定する上での不可欠の点でありますので、ぜひ引き続き委員の皆様からご支援、ご協力を賜れば大変ありがたいと思います。

委員の皆様には貴重なご意見をいただいて、ありがとうございました。最後ですが、本日の意見交換、意見をいただいている方もおられますが、意見交換の結果を、今日は第1回目ですので全体的な計画のポイントについて反対のお立場の意見はなかったと私は感じたところですが、今後は資料2の内容を基に計画の策定に向けた議論を進めていただきたいと思います。委員の皆様いかがでしょうか。

(委員から異議なし)

ありがとうございます。それでは資料2の事務局の提案に基づいて、今後さらなる詳細な議論の方に入っていきたいと思います。委員の皆様のご了承いただきましたので、計画のポイント、そして本日の意見交換をキックオフとしまして、今後の議論、検討の準備を事務局におかれましては積極的に進めていただきますよう心からお願い申し上げます。

4 閉会